

新潟県社会福祉士会

事務局だより

Niigata Association of
Certified Social Workers



- ▼▼▼▼▼▼▼▼▼▼▼▼
- 新春のご挨拶（副会長・丸山径世）
 - 映画「プリズン・サークル」上映会報告
 - 9月から虐待対応ゼミはじめました
 - 研修「通所施設のBCG」報告
 - 研修「障害者差別解消法と合理的配慮」報告
 - 高齢者支援班実践報告会報告
 - 令和6年度の「家族割」受付開始
 - 新潟県地域生活定着支援センター相談員募集

Facebook



Instagram



OfficialSite



2023
No.05
Junuary,2024



新春のご挨拶を申し上げます。

日頃より公益社団法人新潟県社会福祉士会の活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。旧年中のご厚情に深謝いたしますとともに、本年もなお一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

さて、世界では、ロシアとウクライナ、パレスチナとガザなどにおける凄惨な状況、地球規模の気候変動、そして格差の拡大など、情勢が変化しています。その影響は我が国にももたらされ、もちろん新潟県にも及んでいます。具体的には、外交問題や安全保障、日用品や食材、燃料費などの物価上昇に伴う経済構造の変化、少子高齢化、さらにはグローバル化とデジタル化による教育や情報などの格差や貧困の問題です。この影響は今後なお一層加速していくものと思われます。

2019年4月の「働き方改革関連法」の施行後、働き方も大きく変化してきました。学会や会議などはリモートで開催され、移動に伴う時間と経費を削減し、その分プライベートや自己研鑽などに有効活用できるようになりました。その一方で業種を問わず、人材が不足する中においても、販売価格や賃金は据え置きで生産性やサービスの質の向上が求められており、疲弊する経営者や労働者が数多くいます。

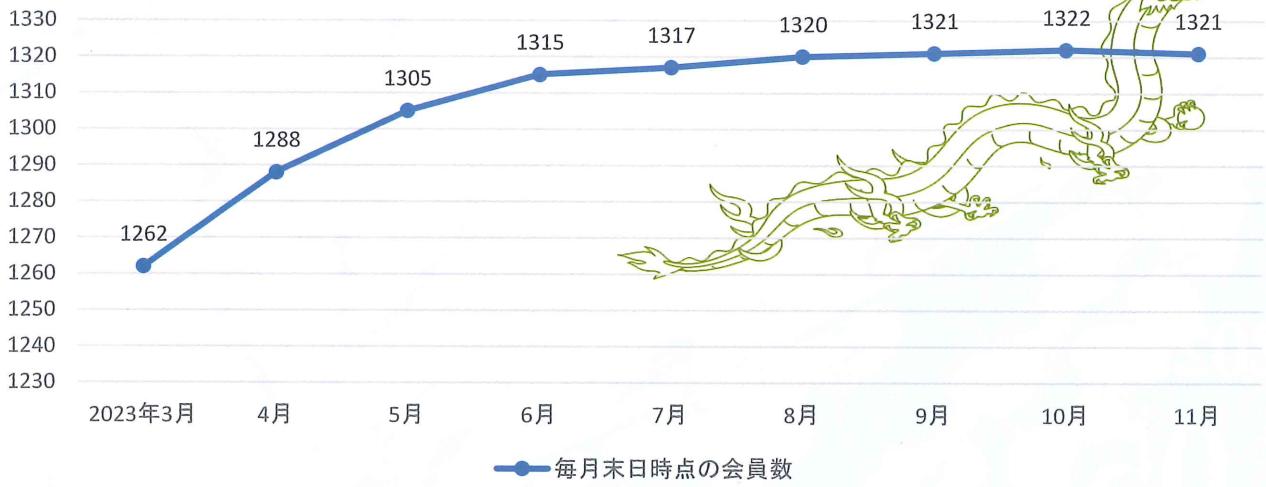
我が国においても皆さんのが実感している通り、ポスト・コロナ社会の構築が本格化しています。コロナ禍で学校や職場におけるコミュニケーションの機会が減少し、孤独や孤立を感じるほか、人と接することに不安を感じている人も少なくありません。複雑で多様性のある社会においては、家庭環境やライフステージ、仕事内容などに応じて、一人一人が心豊かに、持ちうる能力を最大限に発揮し、自分らしさを表現できる働きやすい環境を整えることも必要です。

皆さんはご自分にご褒美をあげていますか。読書に映画、美術館や温泉地巡り、コンサートやライブ、食べ歩きや推し活など、自分の心に栄養を注ぎながら、ワークライフシナジーを実現してまいりましょう。昨年末、カフェで社会福祉士の受験を控えている大学4年生と隣席となり、思わず声をかけました。すると「合格したら入会したいと思っています！合格します！」とキラキラと輝く眼差しで、私のエールに応えてくれました。20代や新卒者の入会率が低迷している当会です。2024年は十二支の中で最も縁起の良い干支と言われている辰年にあやかって、運気の上昇とともにに入会者数も上昇することでしょう。

結びに、本誌をお手に取っている皆さまお一人お一人の2024年が明るく幸多からんことを祈念いたしております。



正会員数の推移(年間)



(数値は「日本社会福祉士会会員管理システム」で抽出)

地域生活定着支援

映画「プリズン・サークル」上映会にたくさんのご参加、ありがとうございました！



毎年1回開催している全県対象の「司法福祉研修」。今年は久しぶりの対面で実施しました。「私たちは【地域共生社会】【多様性の尊重】をどう理解すればよいのか」をテーマに、映画「プリズン・サークル」の自主上映を行いました。また、新潟県再犯防止（社会復帰）推進会議座長の丸田秋男先生（新潟医療福祉大学前副学長）による問題提起と、新潟県地域生活定着支援センターの歴代3センター長による実践報告も行いました。

当日は約150名の方にお越しいただき、「大変良い研修だった」「映画や登壇者の言葉に多くの気づきをもらった」「今後も学びたい」など、ありがたい感想も多くいただきました。

12年前に定着支援センターが開所した当初は手探りで悪戦苦闘していましたが、今はたくさんの方の理解と協力をいただいていることに改めて感謝です。これからも当センターは、地域の皆様と共に歩んでまいりたいと思います。

（報告：新潟県地域生活定着支援センター
平栗華代）

虐待対応委員会

9月から「虐待対応ゼミ」はじめました



高齢者虐待対応専門チームでは9月から、「虐待対応ゼミ“一緒に考えよう、虐待対応計画”」をZoomにて奇数月第3木曜日に開催しています（今年度は9月、11月、1月、3月）。

実際の虐待対応事例を持ち寄り、帳票を使って事例研究に近い展開で勉強会を行っています。虐待対応は迅速な判断や対応を求められ、なかなか落ち着いて振り返る機会を作るのは難しいと思いました。そこでゼミでは帳票に沿って対応を振り返ったり、ポイントに気づいたり、効果を体験して、同じ社会福祉士仲間でそれを共有しつつ学びあう場となっています。

現在も少人数で、まだ参加者を募っています。虐待対応を学べる貴重な機会となっていますので、気になりましたらぜひ新潟県社会福祉士会事務局にお問い合わせください。一緒に学んでいきましょう。

（報告：虐待対応委員会担当理事 古澤圭）

災害支援班

11/12（土）、通所施設のBCPを考える研修会を開催



今回は、佛教大学専門職キャリアサポートセンター専任講師・NPO法人さくらネット理事の後藤至功先生を講師に実施しました。

今回の研修会では社会福祉法人のぞみの家福祉会「あおの風」BCP作成担当者・居城慎也さん（当会会員）から実際のBCPを説明頂き、後藤先生から解説・アドバイスを頂く講義を軸に、風水害への対応に関する後藤先生からの講義、グループでの情報交換と、BCP実施、導入に向けた具体的な内容で充実した研修になつたと思います。

今回もオンラインの研修ではありましたが、県内外からたくさんの方からご参加いただき、ありがとうございました。

（報告：災害支援班運営委員 水落大輔）

障害者支援班

11/30（木）、障害者差別解消法と合理的配慮をテーマに研修を開催



令和5年11月30日（木）13:30～16:30オンラインにて「改めて考える 障害者差別解消法と合理的配慮」を開催しました。

基調講演の講師は野澤和弘さん（植草学園大学教授／毎日新聞客員編集委員）。また、株式会社NSGソシアルサポート樋口様、株式会社ナルス森本様、障害者就業・生活支援センターさくら鈴木様をお招きし、合理的配慮セッションを実施しました。

基調講演では、事例を用いてお話しをいたことで、非常にわかりやすく、改正差別解消法と合理的配慮について大いに理解が深りました。特に、アンコンシャス・バイアスの部分と建設的な対話というキーワードがいかに重要なかについて再確認できました。

合理的配慮セッションでは、その人を知ることとコミュニケーションが大切であるという部分が、3名の方の報告に共通していた点でした。

障害者差別解消法について理解を深めることができ、実際にどのようなことが配慮なのか、それをするために必要なことが何かを学ぶことができました。

（報告：障害者支援班運営委員 萩野雅輝）

つながりと実践の種を、見つけて育てたにちようび ～11/19（日）高齢者支援分野の実践報告会レポート

【実践報告×支援者同士の繋がりづくり】を目的に、新潟市のメイン会場（新潟ユニゾンプラザ）と、上越・長岡・佐渡のサテライト会場それぞれで集まり、各会場をZoomで繋ぐという初の試みでした。

実践報告は3名の社会福祉士から

- ①運転好きの認知症高齢者が免許を返納するまでの伴走型支援（新潟会場）
- ②施設におけるコロナ禍での支援に苦しみながらも仲間との気付きを経ての地域実践（長岡会場）
- ③障害・生活困窮相談業務の委託を受けている地域包括支援センターによる障がい者・多頭飼育崩壊家庭への地域ぐるみの支援（上越会場）

が報告され、その後のグループワークで、参加者の日ごろの実践や思いなどを語りあい、共有しました。

実践報告会終了後は、各会場ごとに懇親会も開催。さらに熱い実践トークに花が咲き、それぞれの今後について語りあえる素敵な時間となりました。

貴重な日曜日にお集まりいただいた方々には、参加者同士の繋がりや、実践への気づき、自分も頑張ろうという思い等、今回見つけた【種】を育てていただければ幸いです。

たくさんのご参加、ありがとうございました！この実践報告会は来年度も実施予定です。

（報告：高齢者支援班新潟地区委員 井原雅美）



12/9（土）、県央地区でソーシャルワーカー同士が 繋がりました～しゃべろう！つながろう！県央！レポート

今回、研修会を実施する目的として、「支援者の輪を広げる事」と「自身の実践を振り返り、支援者の実践報告を聞くことで新たなモチベーションにつなげる事」の2点を意識し、企画しました。

今回参加された方の中には、今年の9月に新潟地区で開催された「繋がりカフェ」や、11月19日に実施した「つながりと実践の種を見つけるにちようび」に参加された方もおられ、研修会を通して同じ思いを持った方々が少しずつ繋がっている事を実感する事ができました。また、グループワークでは、「今まで頑張ってきた事や、今頑張っている事」などを発表しあう事で、和気あいあいとした雰囲気の中で実践の振り返りが行えていました。

専門的な知識を学ぶ事と並行して、今回のように日頃感じている事を気軽に話し合うことも重要であると感じました。

参加してくださった皆様、ご協力いただいた皆様、本当にありがとうございました！

（報告：高齢者支援班県央地区委員 坂田直樹）



生活支援班

子ども家庭福祉について学びました



12月17日、新潟テルサにて40名弱の参加を得て、子ども家庭福祉について知る研修を実施しました。

タイトルにはあえて「イチから学ぶ」という言葉を用いて参加を呼びかけました。これは我々生活支援班のちょっととしたこだわり・・・「あらゆる福祉分野への興味と知識が、多様な生きづらさを抱えた人々への支援を可能とする！」という考えに基づいています。

児童家庭福祉の分野に直接携わる会員はすくないけれど、多くの社会福祉士に参加してほしかった。



「自分には関係ない」とは思ってほしくなかったのです。今皆さんのが携わる分野の支援対象者たちはその根底に成育歴の最初の部分が大きく影響していると感じてはいないでしょうか。そんな理由から、多くの方がよく知らない子ども家庭分野でも、あえて「イチから勉強してみよう」とお誘いしたのです。

さて、当日は小池由佳さん（当会理事、新潟県立大学教授）より、児童家庭福祉分野の制度の変遷や今後の動向など、丁寧に語っていただいたのち、母子生活支援施設の管理者をされている川村雅子さん（当会会員）と小池理事との対談へと続き、最後には小グループで参加者同士の意見交換を実施しました。

ここにも我々生活支援班のちょっとしたこだわりがあります。せっかく対面で実施しているのだから、志を同じくする参加者同士が少しでもお互いのことを知り、そして意見を交わしあい人脈を広げていく、そんな積み重ねを大事にしたい。それが、新潟の福祉をよりよくしていく礎になっていく信じてグループでの意見交換の場を用意しました。写真を見ていただくとその様子がよくわかりますね！

皆さん研修開始前から名刺交換されたり、早くも活発に情報交換をされていました。さすが！



生活支援班は3月16日に次なる研修を実施します。あらゆる生きづらさを抱えた人々に対して「伴走型支援」を展開している谷口仁史さん（認定NPO法人スチューデント・サポート・フェイス代表理事）を講師に迎え、その実践を語っていただきます。まさに生活支援班のド真ん中！目標参加者は80名！ジェネリックソーシャルワーカーを目指して一緒に研鑽しようじゃありませんか！

（報告：生活支援班担当理事 國兼明嗣）



名簿登録研修

2023.11.11~12

新潟ユニゾンプラザ

今年度の成年後見人材育成研修を修了しました。新潟の専門職後見人として活動を希望する方を中心に約40名が参加。受任直後や、受任して約1年間くらいの後見人の職務について、また、法に規定される成年後見人の権限や義務、基本姿勢や活動リスク、など新潟の仕組みなどを学んでいただきました。

最後は後見人としての支援姿勢を問う論述試験を実施。ぱあとなあ新潟本部運営委員が約2週間かけて評価を行い、37名を合格といたしました。

中越地区 研修報告

2023.12.9

オンライン（Zoom）
参加者29名

1. 活動報告『社会福祉士が行う居住用不動産の管理について』
施設入所して空き家になってしまった被後見人の自宅の管理に関する事例を報告してもらいました。社会問題となっている空き家について、不動産管理の専門的知識のない社会福祉士後見人がどのように対応していくか考えるよい機会となりました。

2. 参加者自己紹介およびスピーチ

参加者全員より一人2～3分程度、自身の後見活動について語ってもらい、様々な困りごとや疑問が出ました。参加者がほっこりできる話題を提供してくれた方もおり、それぞれの活動を知り、課題を共有できる貴重な時間となりました。今回出た疑問等について、今後の地区研修で理解を深めていけるよう企画していきたいと思います。

（報告：ぱあとなあ中越地区委員 阿部宏子）

1. 自己紹介、参加者からの近況報告、意見交換 (意見交換テーマ)

- ・被後見人の農地の売却希望者への対応、手続きの方法について
- ・介護支援専門員等他職種との関係性や役割についての共有、連携の取り方について

2. 運営委員からの連絡事項等

- ・ぱあとなあ活動報告システムの運営状況など
- ・今年度の次回研修の予定について

次回は第3回、3月9日（土）10:00～12:00予定

（報告：ぱあとなあ上越地区委員 荒井琴美、矢崎継）

上越地区 研修報告

2023.11.25

だいにちスローライフ
ビレッジにて
参加者16名

福島県生活再建支援拠点 コランショ新潟

東日本大震災
の被災地視察
に行ってきました



■生活再建支援拠点とは

福島県から県外に避難されている方が、避難先で直接帰還や生活再建に向けて必要な情報を入手したり、相談できる拠点です。相談や交流会等も実施しています。

福島県が復興庁の被災者支援総合交付金を活用し、地域のNPO等に委託して全国26か所に設置しています。

東日本大震災の被災地視察研修のため、令和5年12月11日と12日の2日間の日程で福島県内の浜通りと呼ばれる浪江町・双葉町・大熊町へ行ってきました（視察研修の主催は、全国の生活再建支援拠点を管轄するふくしま連携復興センター）。

現在の復興状況や生活に必要な自治体の支援策などを見たり聞いたりすることで、福島県からの避難者支援を行っていく上でとても勉強になった時間でした。

視察1日目は福島駅、道の駅りょうぜん、ふれあいセンターなみえ（福祉センター、交流センターなど4施設を複合した施設、研究教育機関の福島国際研究教育機構）、車窓視察（浪江～双葉～大熊間での語り部さんのお話）、大熊町大河原地区（大熊町役場、商業施設、交流施設、認知症高齢者グループホーム、公営住宅、再生賃貸住宅、子育て支援住宅、学び舎ゆめの森）の順に視察してきました。

視察2日目は「ふたば医療センター付属病院」で通常の業務の他に訪問診療や多目的ヘリコプターを完備していることのお話を伺い、スーパー・薬局・家電・食堂など幾つかのテナントが入っている「さくらモールとみおか」では、町民の生活を支えている現状を見るることができました。

令和6年3月で震災から13年目を迎ますが、今回の視察で復興に向けて様々な取り組みが着々と行われていることを知るよい機会となりました。

（報告：福島県生活再建支援拠点コランショ新潟 相談員 川村しのぶ）

写真右上／再建された大熊町役場

写真左下／震災遺構となっている請戸小学校への案内板

理事会・ 内部役員会から

法人研修班運営委員会に、 新たに2名の委員を追加

2023年11月24日開催の理事会にて、法人研修班運営委員の新委員2名の追加が承認されました。

久保田勇介さん（№61612）
佐藤優香さん（№71882）

令和6年度新潟県社会福祉施策・予算への要望について

県社協を中心とした複数の福祉団体で毎年実施している県への共同要望。当会からは「福祉職全体の人材確保に関する取組」と「地域生活定着支援センター運営に係る予算の安定確保」について要望を提出。

12/27、各団体の会長が新潟県庁へ出向き、県知事等へ要望を伝えました。

事務局だより発送作業、 今回から外注になりました

これまで事務局員が行っていた発送作業ですが、就労支援事業所へ委託することとし、見積りを取って検討した結果、「就労支援事業所メロディ」（就労継続B型／新潟市秋葉区）を委託先として決定しました。
今回からお願いしています。

長野県士会、山梨県士会 と意見交換をしました

毎年実施している甲信越社会福祉士会連携会議。今年は新潟が幹事で12/2にオンライン開催。長野県士会が取り組んでいる会のプランディングが興味深かったです。基礎研修は来年も3県ともにeラーニング活用予定となりました。R6年度のこの会議は長野です。



日本社会福祉士会による ヒアリングがありました

12/3、日本社会福祉士会の安藤千晶副会長が来訪し、県士会へのヒアリングが行われました。会長と副会長2名、事務局長、次長が参加し、当会の体制や取組、日本士会への意見・要望などをお伝えしました。

2時間半、
がっつりお話ししました

活動報告 制度利用団体 自主活動支援

あがのソーシャルサポート研究会

代表 中村 真治（会員No.21792）、構成員 6名（R5.4月時点） *2023年度助成金利用団体

高齢、障がい、医療、行政などの分野を超えて、阿賀野市での「身寄りのない方における問題」について実態や課題を共有し、一人一人が取り組むべき行動・実践方法を学ぶ。学習会の内容は行政機関や法人等への提言につなげていく。



阿賀野市における「身寄りなし問題」について、地域のソーシャルワーカーが有志で立ち上げた学習会の活動を報告します。

11月22日は第3回目の学習会として、「高齢分野における身寄りなし課題」をテーマに開催。助言者として、佐々木智之弁護士（にいつ・さつき法律事務所）、須貝秀昭さん（身寄りなし問題研究会）にご協力いただき、実践報告・ディスカッションを行いました。24名の参加がありました。

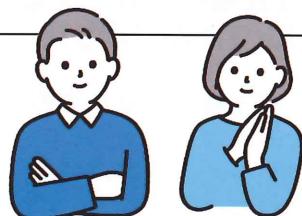
養護老人ホームと地域包括支援センターから、身寄りなしのケースに対する実践と課題を報告いただきました。阿賀野市での現状と課題を共有したほか、県央地域での市民後見人養成や重層的支援体制整備の取り組みなども紹介され、参加者一人ひとりが、阿賀野市の今後の取り組みや課題を、個人・組織・地域レベルで考える機会となりました。

今年度は全3回、延べ約60名の参加のもと学習会を実施できました。周知広報などの課題もありましたが、関係者の協力のもと当初想定した以上の学びの場となりました。今後は、単に学びで終わらせず、ソーシャルアクションにつながる取り組みにしていきたいと思います。

自主活動支援
制度について
はこちら
(会員専用)



受付開始です
「家族割」令和6年度の



2024（令和6）年度分の年会費の「家族割」申請受付を開始します。家族割は自動更新ではありませんので、該当する方はお忘れなく申請してください。

家族割とは

- 同一世帯に複数名の正会員がいる場合、2人目以降の年会費が割引されます。（申請者は15,000円。2人目以降が12,000円）
- 新潟県社会福祉士会からの送付物（事務局により、各種研修案内、実践報告集等）が、1回につき1世帯1通となります。
- 総会の議案集、議決ハガキは全員分が送付されます。
- 研修参加費の会員価格は全員に適用されます。

申請方法

- 今回同封した申請書、または当会ホームページから申請書をダウンロードして記入し、下記証明書類を添付のうえ、2024年2月29日（木）までに当会事務局へご提出ください。
- 家族割は自動更新ではありません。お手数ですが毎年度申請してください。
- 申請書を提出する前にはコピーを取り、お手元に控えとして保管してください。

家族割について
はこちら
(会員専用)



家族割の対象	必要な添付書類
・同一住所にお住まい同一姓	証明書類は必要ありません
・同一住所にお住まい、姓が異なる ・異なる住所にお住まい、同姓 ・異なる住所にお住まい、姓が異なる	続柄がわかる書類（戸籍謄本や住民票、同性とのパートナーシップを証明する書類、健康保険証等の写し） ※発行から3ヶ月以内のもの（健康保険証は有効期限内のもの）

新潟県地域生活定着支援センター 相談員募集

(2024年度嘱託職員)

勤務先

(公社) 新潟県社会福祉士会
新潟県地域生活定着支援センター
新潟市中央区上所2-2-2
新潟ユニゾンプラザ3階

職種

相談員
(嘱託職員)

業務内容

福祉的な支援を必要とする矯正施設
退所予定者の社会復帰の支援。
矯正施設内で対象者と面談し、退所
後に必要となる福祉サービスの聞き
取りを行い、受入先施設の調整や福
祉サービスに係る申請支援など。

雇用期間

2024年4月1日～
2025年3月31日
* 延長の可能性あり

要件

- ・ 社会福祉士または
精神保健福祉士資格
- ・ 普通運転免許
(業務上、車を使用する機会が非
常に多いです)

就業

8時30分～17時30分
(休憩60分)
休日は土日祝日及び年末年始
※年間数日程度、土日祝の出勤あり

基本給 (日給)

8,800円～10,400円

手当等

- ・ 資格手当
(月10,000円)
- ・ 通勤手当
(実費支給、
月額上限28,000円)
- ・ 住宅手当
(月額上限16,000円)

社保

雇用保険
労災保険
健康保険
厚生年金

賞与

2023年度実績
3.25カ月

【本件の連絡先】

(公社) 新潟県社会福祉士会事務局 (担当: 田崎、齊藤)
TEL 025-281-5502

法人格取得20周年記念事業 PT(プロジェクト)より

現在、実行委員会は月1回のペースで会議を実施しています。

現在までに、2026年の秋頃には「記念式典・祝賀会」を実施したいね、また、それに先立ち「記念誌（まじびとスペシャルバージョン？）」を作成したいね、という大枠の方向性が出ています。

が、まだまだあくまで方向性の段階。

会の「歴史」と「未来（これから）」を会員みんなで感じられる記念事業となるよう、これから役員以外の会員の意見やアイディアをどう集めていくか、それらをどんな形にしていくか、費用面からはどうか、など、まだまだたくさんのこと検討せねばなりません。

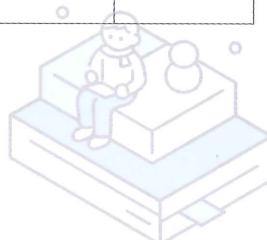
引き続きご理解とご協力を願っています。



最近届いた書籍や刊行物

事務局で閲覧できます

書籍名	発行元	発行年月
月刊福祉12月号（特集：外国人とともに「福祉」で働く）	全社協	R5年12月
月刊福祉1月号（特集：人材確保の未来を考える）	全社協	R6年1月
実践成年後見 No.108（特集：任意後見契約発効前における本人支援）	民事法研究会	R5年12月



編集後記

新年あけましておめでとうございます。本年も何卒よろしくお願ひいたします。

みなさん、新年の目標は立てましたか？

私は今年は、「家をキレイに保つ」「肌の保湿をしっかりする」、この2つを継続できるように頑張りたいです。

なんとも小さな話ですが、いつもちゃんと続かないんですねトホホ…。今年は頑張る！（は）

行事予定

Schedule

日程	内容	会場・方法
2/3	基礎研修Ⅲ・8日目	オンライン
2/7	障がい者権利擁護チーム会議	オンライン
2/9	対人援助スキルアップラジオ	朱鷺メッセ展望室+YouTubeLIVE配信
2/10	社会福祉士実習指導者講習会1日目	オンライン
2/11	社会福祉士実習指導者講習会2日目	オンライン
2/17	基礎研修I・集合研修②	オンライン
2/17	ばとなあ下越地区研修	未定
2/19	総合企画会議	事務局
2/22	理事会	ハイブリッド形式
2/25	社会福祉士実習指導者講習会3日目	オンライン
2/27	法人格20周年記念事業PT会議	オンライン
3/16	ばとなあ新潟地区研修	オンライン
3/16	生活支援班研修「伴走型支援を知るための研修会」	新潟ユニゾンプラザ
3/18	総合企画会議	事務局
3/21	虐待対応ゼミ	オンライン
3/26	法人格20周年記念事業PT会議	オンライン

- 2023年12月25日現在の予定です。日時、会場等は変更になる場合があります。
- 新型コロナウィルスの感染状況や自然災害等によっては急遽中止・延期とする場合があります。その際は、開催前日までにホームページ、Facebookでお知らせしますので、ご確認をお願いいたします。
- 当会ホームページにも年間予定カレンダーを掲載し、随時更新しています。ご確認ください。

発行：
公益社団法人新潟県社会福祉士会
〒950-0994新潟市中央区上所2-2-2新潟ユニゾンプラザ3階
TEL：025-281-5502/FAX：025-281-5504
Mail：njacsw@poplar.ocn.ne.jp
URL：https://csw-niigata.com/